

日本一般用医薬品連合会、日本OTC医薬品協会主催

【2021年度プレスセミナー】 コロナ禍における 生活者の健康状態やOTC対処の変容について

株式会社インテージヘルスケア
コンシューマーヘルスケア・ソリューション部
長嶋 秀治

アジェンダ

1. 主要薬効のOTC市場動向
2. かぜ症状の実態
3. 頭痛症状の実態
4. 今後に向けて

アジェンダ

1. 主要薬効のOTC市場動向
2. かせ症状の実態
3. 頭痛症状の実態
4. 今後に向けて

主要薬効の販売金額推移（過去3年間）

データソース：インテージSRI+
 市場：OTC(指定医薬部外品含む)
 期間：2018/10-2021/9
 指標：販売金額



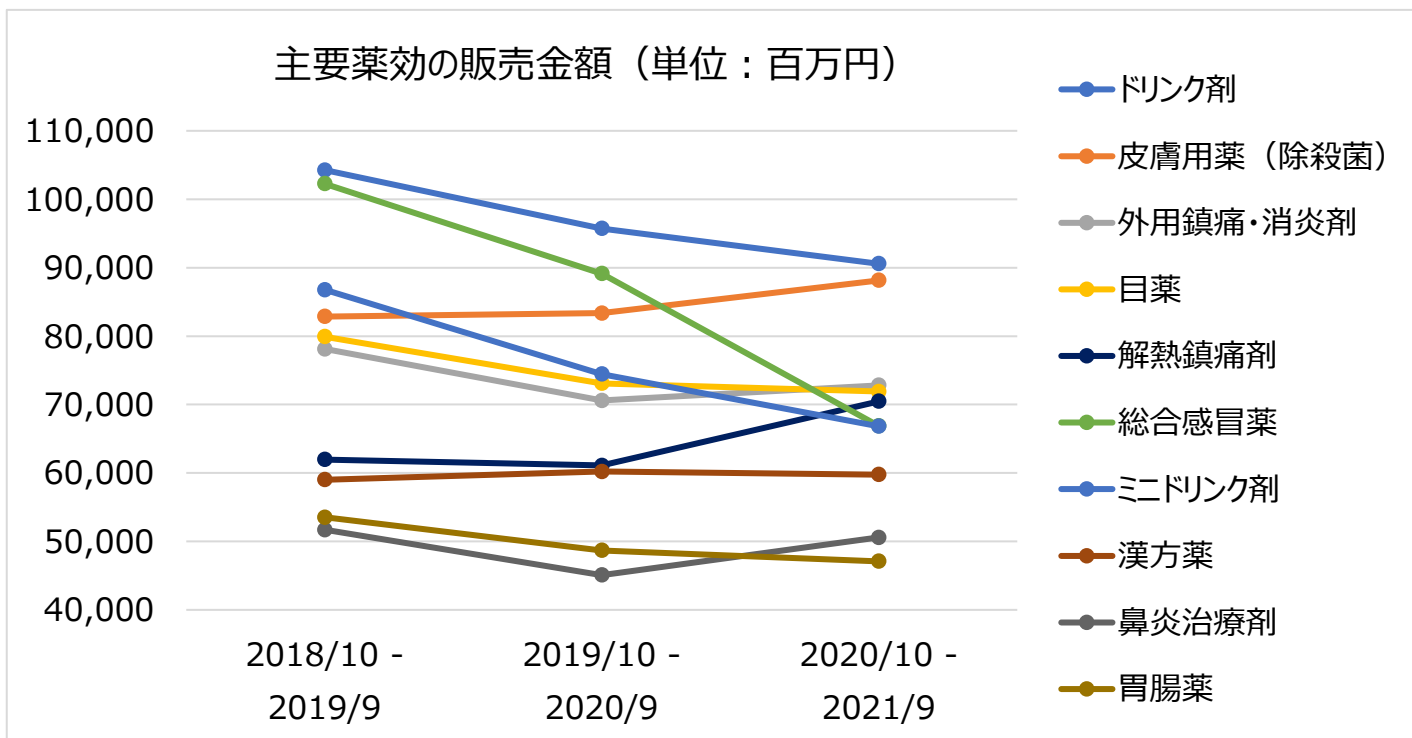
好調

皮膚用薬、鼻炎治療剤、
解熱鎮痛剤



不調

総合感冒薬、ドリンク剤、
ミドリック剤、胃腸薬、目薬



コロナ禍

総合感冒薬・解熱鎮痛剤の現状認識と見通し

「総合感冒薬」と「解熱鎮痛剤」に着目

	現状認識	見通し
総合感冒薬	マスク着用、アルコール消毒、うがい励行が定着し、風邪をひく人が減少	今後の回復の見込みは？可能性のあるのはどこか？
解熱鎮痛剤	コロナワクチン接種副反応対処のための需要増加	ワクチン接種が落ち着いた後の売行きに懸念

アジェンダ

1. 主要薬効のOTC市場動向
2. **かぜ症状の実態**
3. 頭痛症状の実態
4. 今後に向けて

「生活健康基礎調査」とは？

16～79歳（※）約2500人を対象に、
健康・美容に関する意識や行動を聴取した郵送調査です。
1991年から継続的に実施しております。

※2005年度から対象年齢上限を65才⇒69才に拡大。

※2018年度から対象年齢上限を69才⇒79才に拡大。

最近1年間の

- 健康や美容に関する意識と関心度
- 経験症状や程度、対応実態、対処方法
- 市販薬・健康食品等の購入状況



・・・などを把握。

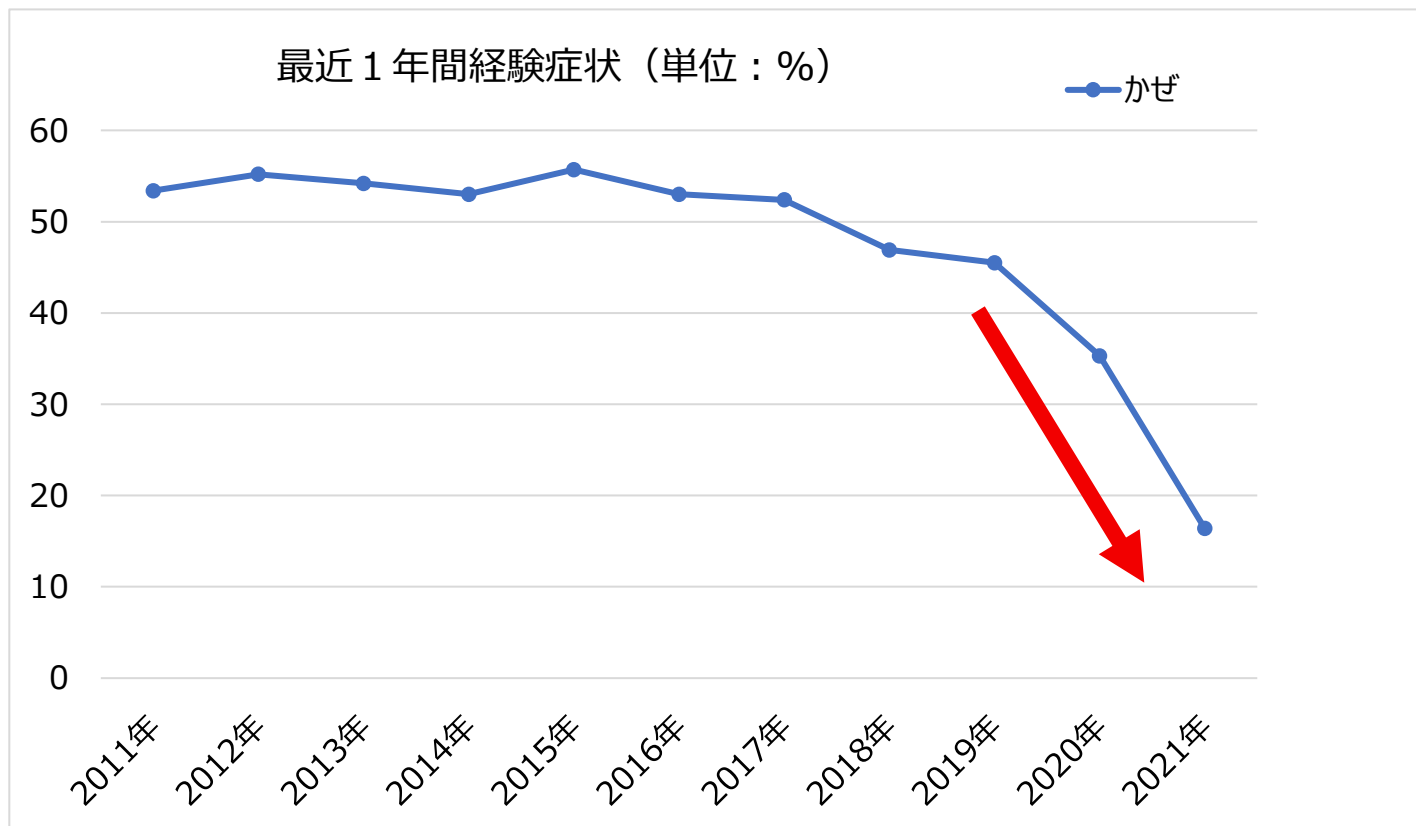
各症状経験者のボリュームや対応実態、
各カテゴリー・症状ごとの性年代など対象者プロフィール、
カテゴリー併買、支出金額

・・・などが分析可能です。

かぜ症状経験者のボリューム

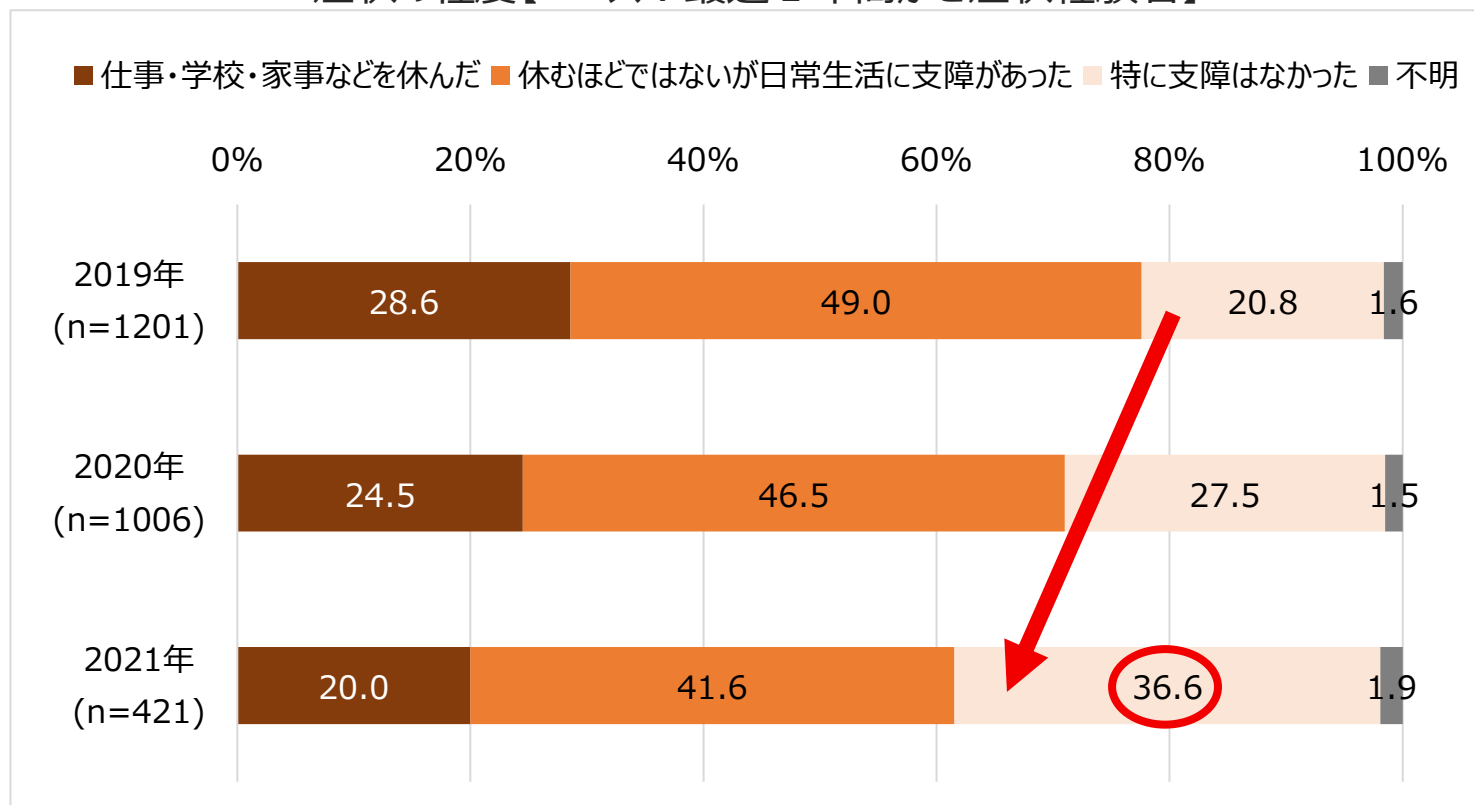
データソース：生活健康基礎調査
期間：2000年～2021年
対象者：16-79歳男女
対象エリア：京浜/京阪神

かぜに罹る人の人数は、直近のコロナ禍で大幅に減少。
→マスク着用、アルコール消毒、うがい励行が定着したことが要因



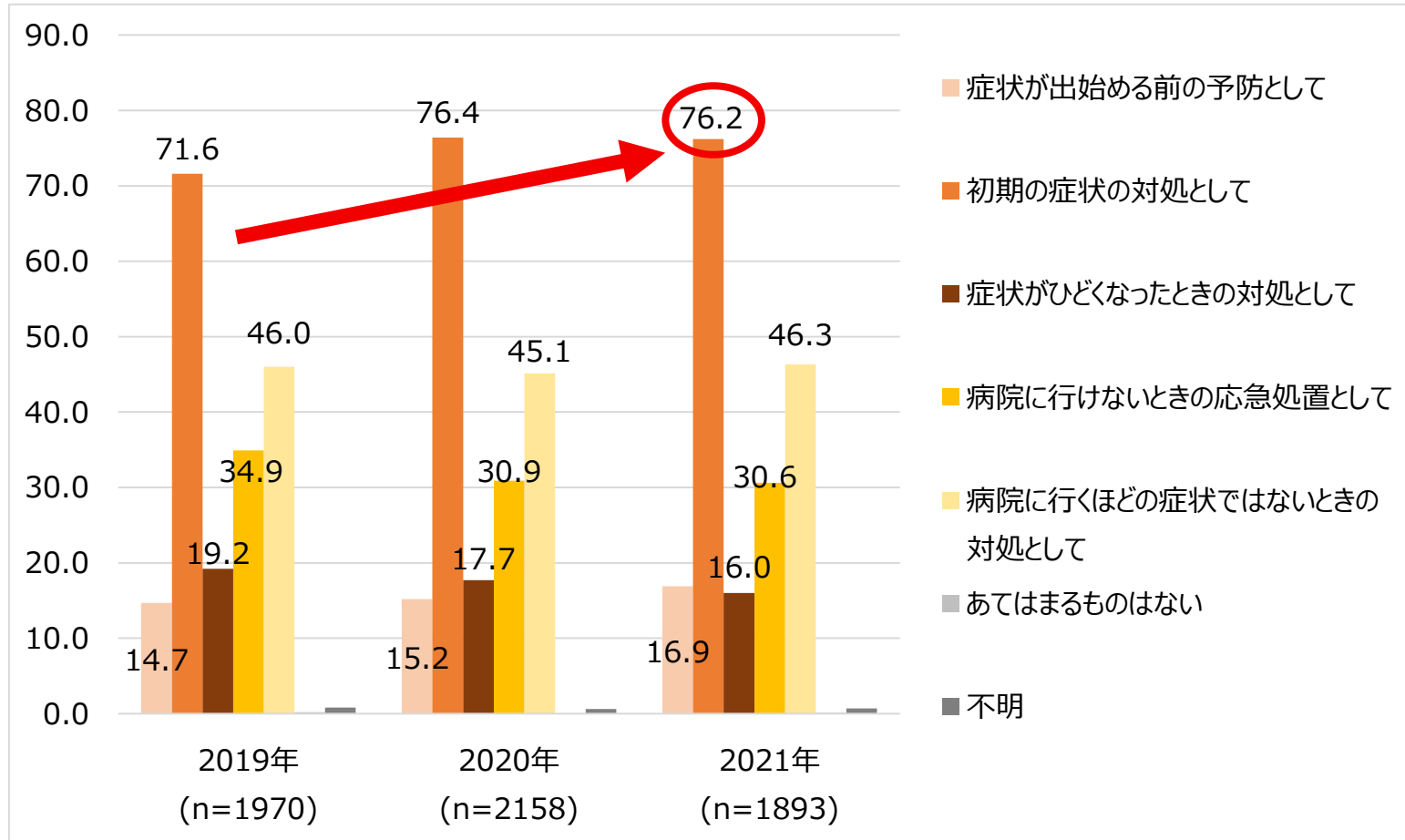
直近では、かぜの重い症状の人が減り、軽い症状の人が増えている。

症状の程度【ベース：最近1年間かぜ症状経験者】



かぜ薬の服用目的（複数回答）

「初期の症状の対処として」が最も多く、直近では増えている。
→かぜのひき始めの対処に向いているものにニーズがある



かぜ薬の服用目的（複数回答）【ベース：かぜ薬服用者】

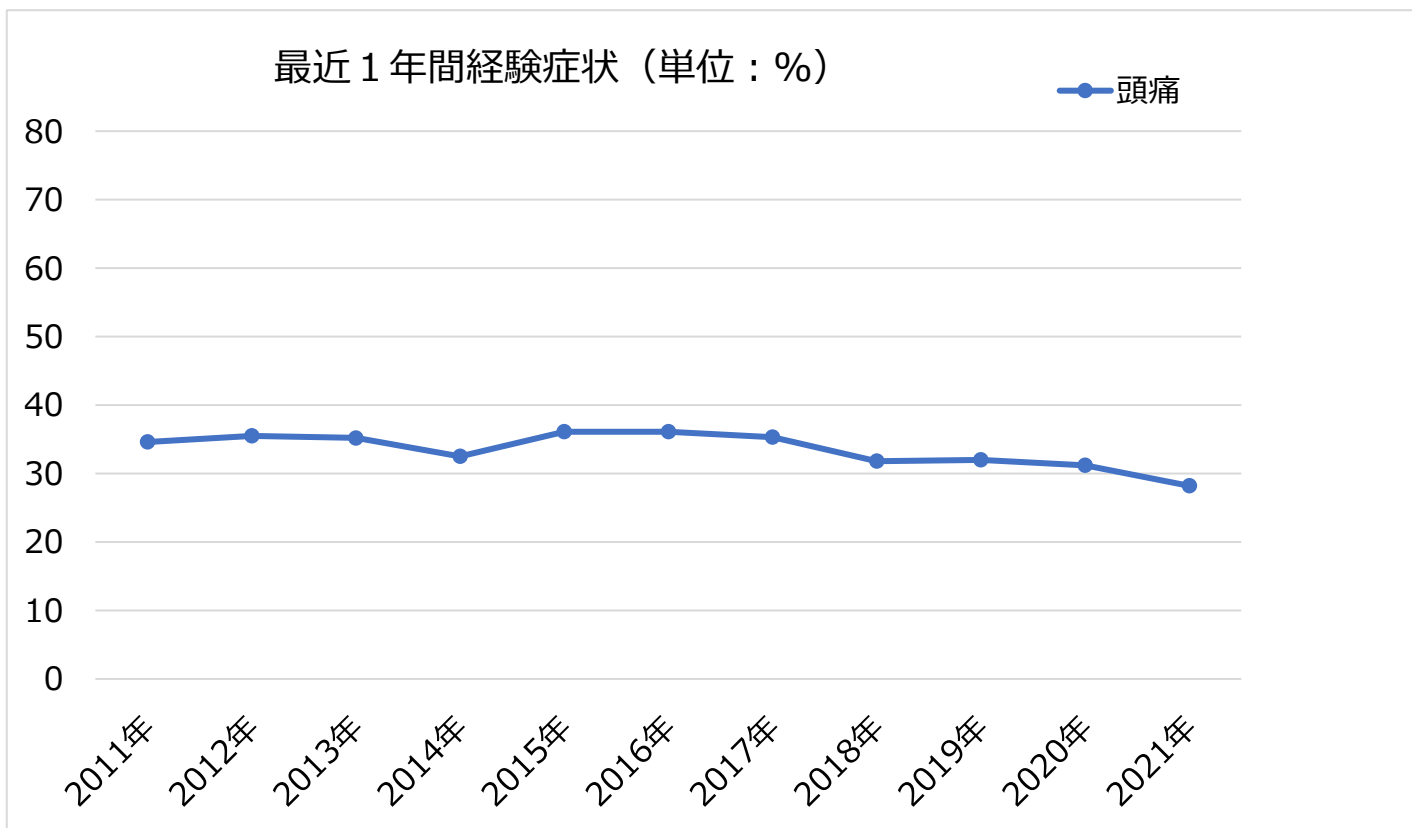
アジェンダ

1. 主要薬効のOTC市場動向
2. かぜ症状の実態
3. 頭痛症状の実態
4. 今後に向けて

頭痛の症状経験者のボリューム

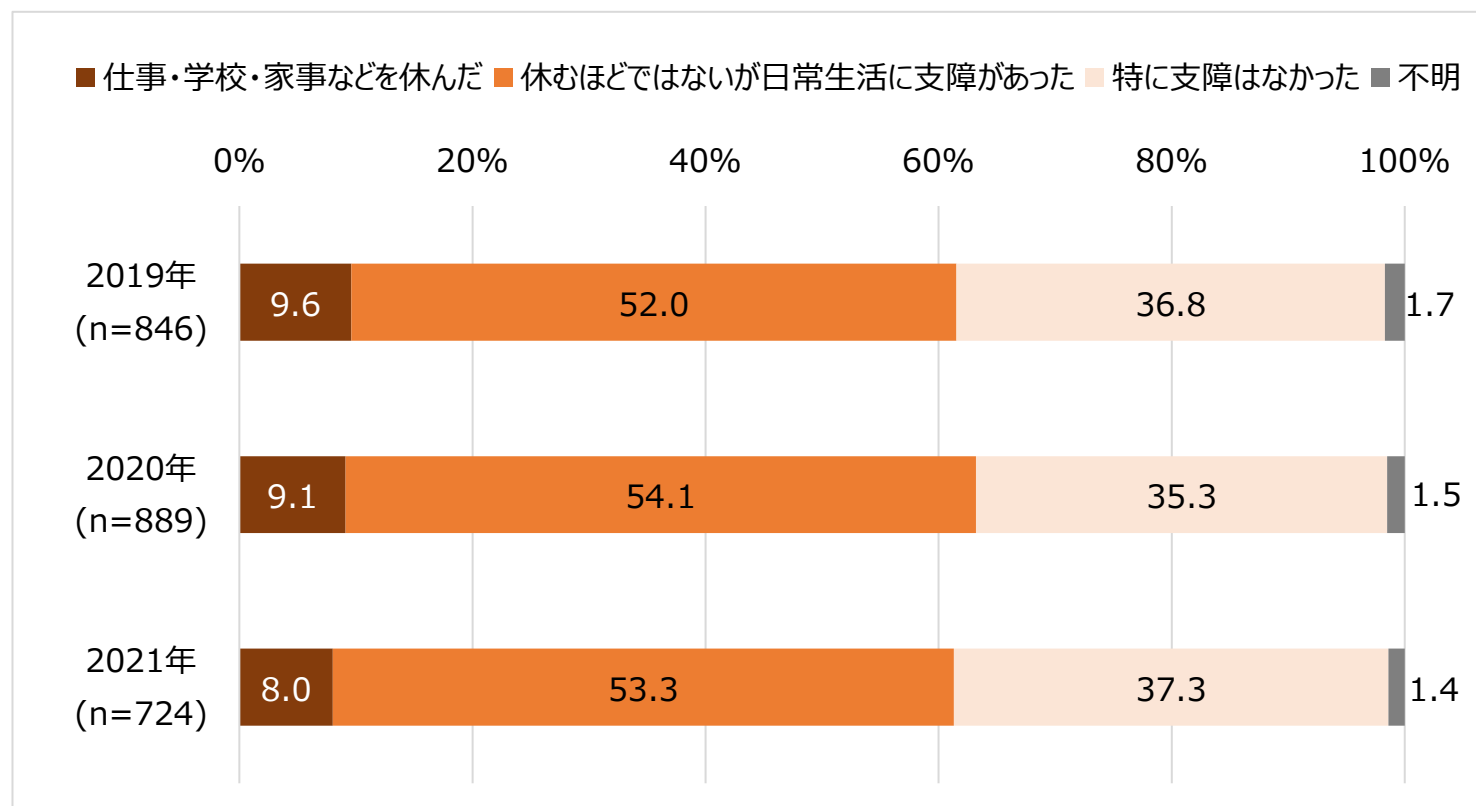
データソース：生活健康基礎調査
期間：2000年～2021年
対象者：16-79歳男女
対象エリア：京浜/京阪神

頭痛症状経験者の人数はほぼ変わっていない（直近では微減傾向）。



頭痛症状の程度については、特に変化は見られない。

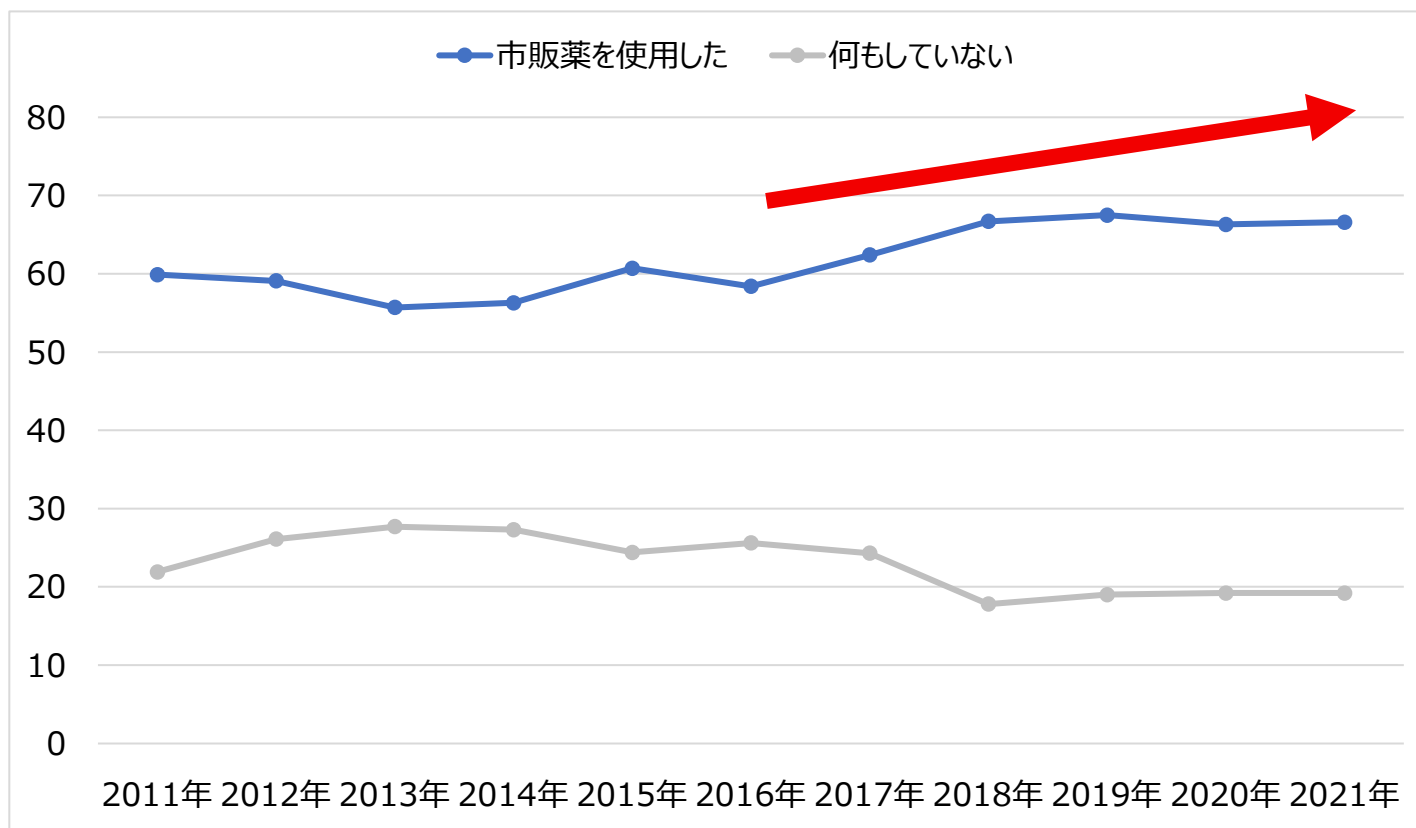
症状の程度【ベース：最近1年間頭痛症状経験者】



頭痛症状への対処方法（複数回答）

データソース：生活健康基礎調査
期間：2000年～2021年
対象者：16-79歳男女
対象エリア：京浜/京阪神

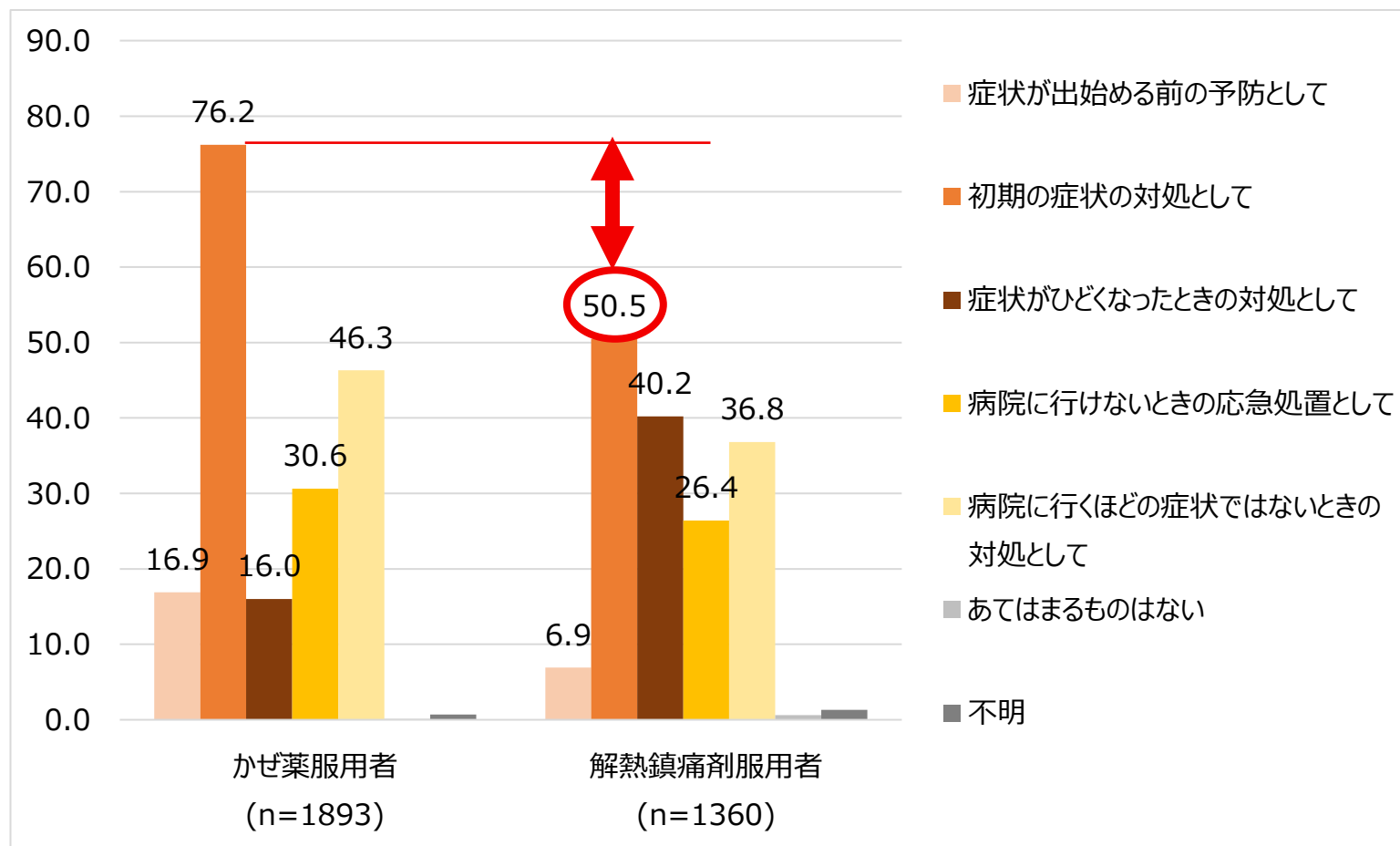
頭痛への対処は、「市販薬を使用」がやや増加傾向で、「何もしない」が減少傾向。
→OTC対処が徐々に、確実に浸透してきている



解熱鎮痛剤の服用目的（複数回答）

データソース：生活健康基礎調査
期間：2019年～2021年
対象者：16-79歳男女
対象エリア：京浜/京阪神

かぜ薬と比べると、解熱鎮痛剤では「初期の症状の対処として」が少ない。



アジェンダ

1. 主要薬効のOTC市場動向
2. かぜ症状の実態
3. 頭痛症状の実態
4. 今後に向けて

今後に向けて

	現状の実態	今後に向けての考え方
総合感冒薬	<ul style="list-style-type: none">・かぜに罹る人が減少。・軽い症状の人が増加。・かぜ薬の服用目的は、「初期症状の対処」が直近では増加。	<ul style="list-style-type: none">・症状別に特化した重い症状向けよりも、かぜのひき始めの幅広い症状の対処に向いているものにニーズがある。➡引き続き「早めの対処」や、罹ったときにいつでも対処できるように「常備薬」の訴求を行なっていく。
解熱鎮痛剤	<ul style="list-style-type: none">・頭痛症状の人口、症状の程度は変化なし。・OTC対処が順調に浸透（未対処が減少）。・コロナワクチン接種副反応対処のための需要増加だが、今後の売行きに懸念。	<ul style="list-style-type: none">・かぜ薬と比べると、初期症状の対処が少なく、症状がひどくなってきてからの対処が多い。➡痛みがひどくなる前に早めに飲む方が効果的であることや、痛みを我慢することのデメリット（体への負荷、時間の浪費につながるなど）についての情報発信、訴求を行なっていく。

ご視聴いただき、誠にありがとうございました

Healthier Decisions

我々は情報に命を与え、医療を享受する人、医療を提供する人、
健康を願うすべての人々が納得の選択をするための力となります

 **intage** 株式会社インテージヘルスケア